

群馬ものづくり改善インストラクタースクール

第11期(前橋校)受講生募集案内

募集期間

平成28年8月15日(月) ~ 平成28年9月16日(金)

公益財団法人 群馬県産業支援機構
群馬県

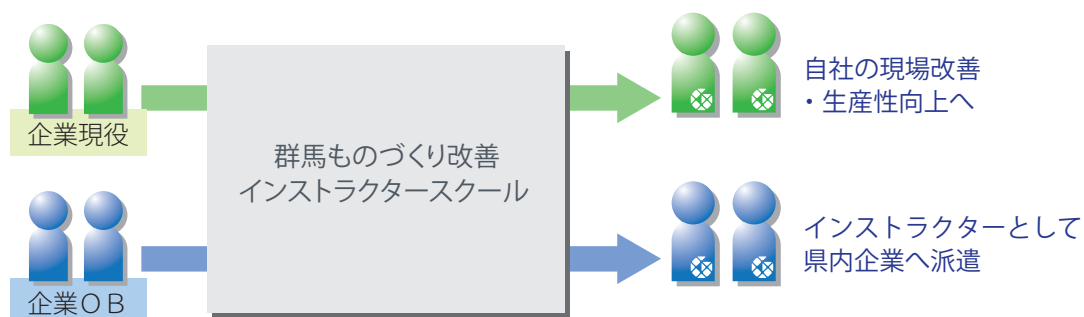
「群馬ものづくり改善インストラクタースクール」事業が目指すもの

経済のグローバル化がますます進展し、激しい国際競争に直面する日本のものづくり産業。諸外国に打ち勝つ競争力を備えた「強い現場」とは、常に改善を続ける、フレキシブルな対応力を持った人材の集合体であり、人材育成を抜きにして競争力向上を語ることはできません。

中小ものづくり企業においても、生産拠点の海外移転に伴う多品種少量生産の増加や製品の多様化によって、生産工程・生産方式の複雑化が急速に進み、現場の人材に求められるスキルは作業の習熟だけにとどまらず、生産全体を効率的に管理できる「総合的な管理技術」へと大きく変化しつつあります。

またかつて「2007年問題」とも呼ばれた、ベテラン人材の定年退職に伴う知識・技能の伝承問題など、人材育成にはいまだ多くの課題が存在しており、地域経済を支える中小ものづくり企業にとって次世代人材の育成は、最優先で取り組むべき経営課題であるとも言われています。

これらの構造的課題に対し群馬県では、平成22年に「群馬ものづくり改善インストラクタースクール」を開校、あらゆる産業に共通する、効率的でムダの無い「よい流れ」をつくる管理技術を身につけた多くの現役人材を輩出して参りました。また現役人材の育成と同時に、大手製造業を退職した企業OBを、中小製造業の現場改善インストラクターへと養成して県内企業に派遣し、現場改善支援に大きな成果を上げています。



開校から7年目を迎えた「群馬ものづくり改善インストラクタースクール」は、現役人材と企業OBの学びの場としてだけでなく、講師も含め、様々な経歴を持った人材が親密に交流できる場として、業種を超えて県内外に広がるネットワークを形成しています。こうしたネットワークを通じて知識・ノウハウの共有化が図れることも当スクールの強みであり、修了生一人一人の活躍をきっかけとして改善活動の輪を広げ、地域産業の活性化、ひいては群馬県全体の競争力向上に資することが「群馬ものづくり改善インストラクタースクール」の狙いです。

スクールの特徴

東京大学ものづくり経営研究センターと共同開発した中小企業現場のためのカリキュラム

「群馬ものづくり改善インストラクタースクール」のカリキュラムは、部分的な改善指導ではなく、設計から製造、物流まで、ものづくりの流れ全体をみることが出来るインストラクターを育成するために、「東京大学ものづくり経営研究センター」（藤本隆宏センター長）との共同開発によって誕生しました。

豊富な演習に加え、実際に中小製造業の現場で改善活動を行う現場実習など、「座学」「演習」「実習」をバランスよく組み合わせた現場密着・実践型プログラムで、中小企業の現場で今、本当に必要とされる知識を体系的に身につけることができます。

東京大学ものづくり経営研究センターの協力による経験豊富な講師陣

大手製造業出身者である東京大学ものづくりインストラクターをはじめ、現場指導経験豊富なインストラクターが主な講義を担当します。

また教材には、東京大学藤本隆宏教授の「生産マネジメント入門Ⅰ・Ⅱ」（日本経済新聞出版社）、および「東京大学ものづくりインストラクター養成スクール」のテキストをベースとする群馬オリジナルテキストを使用します。

継続的なフォローアップ体制

スクール修了生向けに「群馬ものづくり改善インストラクター会議」を定期的開催、工場見学会などを通して、修了後も継続的なレベルアップを図ります。

東京大学ものづくり インストラクター養成スクール

- 製造現場のベテラン人材を、社内や地域で改善指導の師範として活躍できる人材に養成する「ものづくりインストラクターの師範学校」として、平成17年に開校。
- 「ものづくりシステム」の国際的研究拠点である「東京大学ものづくり経営研究センター」（MMRC）による運営。

群馬ものづくり改善 インストラクタースクール

- MMRCの全面的なバックアップの下、地域の人材を地域で育て、地域で活かしていく「地域に合った師範学校」として、平成22年に全国で初めて開校。
- これまでに10期を開講し、115名が修了。全国で地域スクール開校が相次ぐ現在も「群馬モデル」として注目を集める。

カリキュラム体系 (日程順とは異なります)

概 論	1	ものづくりの基礎概念	ものづくりインストラクターとしての基本姿勢とものづくりの基礎概念とは何かを理解します。
	2	競争力と企業パフォーマンス	現場でのものづくり組織能力の大切さと収益力、インストラクターの仕事領域、パフォーマンスの計り方を理解します。
	3	品質管理	「ものづくり」で取り上げる品質の範囲と定義、品質管理のアプローチ、現場での兆候の発見方法などを理解します。
	4	フレキシビリティ	企業のフレキシビリティとはなにか、その必要性、要素を理解します。
	5	コストと生産性	原価企画と原価管理の仕組み、生産性とIE・標準作業との関連、ムダと生産性向上の概念、コスト低減策を理解します。
	6	納期・工程・在庫管理	納期 (D) と背後にある生産数量・生産期間 (T)、それらの管理について基礎的な概念を理解します。
	7	設備管理	設備投資の評価・決定、自動化の程度の選択、設備の保全の方法を理解します。
手 法 (理論・演習)	8	IE	現場の作業改善の基本であるIE (狭義のIE) を、実習を通じて理解します。
	9	標準作業と標準時間の設定	工場管理の基礎である標準作業と標準時間について、その設定方法を理解します。
	10	原価低減 (作業改善)	現場で利益向上・納期短縮に直接結びつく改善の方法を理解します。
	11	QC 7つ道具 新QC 7つ道具	起きている現象を定量化する基本ツールである7つ道具とKJ法、系統図法を理解します。
	12	不良削減及びポカヨケ	不良削減の価値を知り、問題を正しく捉えて対策を行うことで、後戻りしない策を理解します。
	13	原価低減 (VA/VE)	現場で図面や現物をベースにコストを改善する手法について理解します。

カリキュラム体系 (日程順とは異なります)

手 法 (理論・演習)	14	5 S	企業体質の改善に有効である5Sについて、その意義、活動の進め方の理解を深めます。
	15	目で見える管理	誰もが異常値を発見できる状況をつくり、管理を効率化する“目で見える管理”の理解を深めます。
	16	現場の見方	現場を科学的に見る視点を理解します。
	17	からくり講座 (特別講座)	作業員や設備に物を供給・回収する「からくり改善」の事例を通して、定義や基本機構を理解します。
	18	問題解決・リーダーシップとマネジメント	問題解決手法とその手順を、講座と演習によって理解するとともに、リーダーシップとマネジメントの違いを理解します。
	19	インストラクティングの基本	コミュニケーション力を高め、経営者や従業員と協力しながら効果を上げる活動の進め方を理解します。
	20	現場改善の進め方 ・モノと情報の流れ図	ものづくり現場に立ったときの基本パターン（兆候から改善への展開）を理解します。
現 場 改 善 (実 践)	21	現場改善実習	4人1組のチームに分かれ、企業の現場における改善策を検討する実習を行います。
	22	チームディスカッション	現場分析と改善案を再確認し、チームによるディスカッションを行って更なる改善策の検討を行います。
	23	改善案まとめ	現場実習先企業に対して、最終的にどのような提案ができるのかについて、まとめを行います。
成 果 発 表	24	改善策提案(現場発表)	チームごとに現場実習先に対して、改善策の提案を行います。
	25	定石発表	受講生が、現場実習先の課題に対する定石的改善策を発表します。

第11期（前橋校）の募集について

第11期スクールの概要

【受講期間】 平成28年10月14日（金）～平成28年12月17日（土）の金曜・土曜（一部木曜、計19日間）

【会 場】 群馬県公社総合ビル（前橋市大渡町1-10-7）
・10月27日…サンディンググローバルセンター（伊勢崎市寿町20）

【募集定員】 12名

【講座日程】 下表のとおり

【募集対象】 次の（1）または（2）を満たし、生産管理・品質管理・生産技術などの経験があり、I E・ものづくりに関する予備知識を有する方

（1）**企業OB** ・県内在住の大手、中堅製造業で工場などの現場経験豊富なOB
例：工場長、生産管理部門、生産革新部門責任者等（年齢不問）

・スクール修了後、インストラクターとして県内企業への派遣支援活動が可能であること。

（2）**企業現役** ・県内に事業所を有する中小製造業者の現場リーダーまたは幹部候補者

実施日		9:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
1	10月14日 金	開講式	ものづくりの基礎概念		競争力と企業パフォーマンス		品質管理		
2	10月15日 土	コストと生産性		納期・工程・在庫管理		設備管理		フレキシビリティ	
3	10月21日 金	I E							
4	10月22日 土	I E		標準作業と標準時間設定					
5	10月27日 木	原価低減（作業改善）		からくり講座（特別講座）			VA/V E		
6	10月28日 金	QC 7つ道具・新QC 7つ道具					不良削減及びボカヨケ		
7	11月4日 金	問題解決・リーダーシップとマネジメント							
8	11月5日 土	インストラクティングの基本							
9	11月10日 木	現場改善の進め方・モノと情報の流れ図							
10	11月11日 金	現場の見方	5S	目で見える管理	まとめ	現場実習の進め方	定石の作り方	現場実習事前打ち合わせ	
11	11月18日 金	実習現場調査			チームディスカッション				
12	11月24日 木	現場改善指導実習（1）							
13	11月25日 金	チームディスカッション							
14	12月1日 木	現場改善指導実習（2）							
15	12月2日 金	チームディスカッション							
16	12月8日 木	現場改善指導実習（3）							
17	12月9日 金	発表資料作成							
18	12月16日 金	改善提案報告会（Aチーム）		改善提案報告会（Bチーム）			改善提案報告会（Cチーム）		
19	12月17日 土	成果発表会（チーム）			成果発表会（個人）			修了式	

※講座順序は変更になることがあります。

受講料

ガイダンス (9月28日) から開講 (10月14日) までの間に納入していただきます。

企業OB 10万円 (消費税込)

企業現役 25万円 (")

- ・ガイダンス時に請求書をお渡しいたします。
- ・開講後の受講料返還には応じられません。

募集期間

平成28年8月15日 (月) ～平成28年9月16日 (金) **必着**

申込が定員に達した場合、期間内でも募集を締め切ることがあります。

修了要件

出席率が全体の概ね8割に満たない場合、修了の認定を行わないことがあります。(但し、現場実習には9割以上の出席が必要です。)

その他

- ・受講者には、デシマルストップウォッチのご用意をお願いしております。(詳細はガイダンスによる)
- ・現場実習時に、安全靴や作業着上下、帽子等のご用意が必要になる場合がございます。

お申込み方法

必要書類 ・申込書

・職務経歴書

・会社案内 (パンフレット等。現役受講生のみ)

・所定の申込書に必要事項をご記入の上、職務経歴書および企業現役の方は会社案内を添えて、

(公財)群馬県産業支援機構 工業支援課宛て持参または郵送でご提出ください。(FAX不可)

・職務経歴書には市販の用紙などを使用し、受講生ご本人の職務のご経歴をご記入ください。

・申込書は(公財)群馬県産業支援機構で配布しているほか、以下のwebサイトからもダウンロードできます。

(公財)群馬県産業支援機構 <http://www.g-inf.or.jp>

お申込み・お問合せ先

(公財)群馬県産業支援機構 工業支援課 (担当:横尾)

TEL: 027 - 255 - 6501

〒371-0854 前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル 2階